第３学年　　　道　徳　学　習　指　導　案

１　主題名　自然や崇高なものとのかかわりに関すること（項目　Ｄ－１９生命の尊さ）

２　資料名　「生命を考える」出典「明るい人生」

３　主題について

1. 主題設定の理由

生命を軽視する事件が毎日のようにメディアから聞こえてくる。人の命を奪う事件や

自ら命を絶つニュースが世代を問わず後を絶たない。情報化が進む現代で、様々なメデ

ィアを通して「死」に対する過激な表現や描写がれ、社会全体が命に対するの念

や生命を尊重するという意識が低下しているのではないかと懸念する。

また、最近のゲームや漫画の内容も、死を連想するものや、人の命を軽視する内容の

ものが増加し、命そのものに対する考え方も安易であり、軽く扱われている傾向を感じ

る。これらの表現は若い世代へ大きな影響をもたらしていると感じられる。

本単元は、「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の内容項目３－

（１）であり、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命の尊重をねらいとして

いる。そして中学校では、その発達段階として、生命あることに喜びと感謝の気持ちを

深めさせるといった内容を含んでいる。

生命の大切さは頭ではわかっていても、実感には乏しいというのが現実である。自

分の「生命」と同じように、他のすべての「生命」も同じように、かけがえのないこ

との認識をもたせたい。そうすることで、自他の「生命」を大切にする心が育つと考

える。

学習指導要領に「自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命への尊厳、尊さを深く

考えることが大切である」とある。自分を大切にすることができないから、相手を大切

にすることができないのではないかと考える。そこで、まず、自分の存在はかけがえの

ないものだということを知らなければならない。それを知ることによって、相手の存在

もまたかけがえのないものなのだということを想像できる。自分の生命は、過去の祖先

からのつながりであること、また未来の自分の子孫へつながるものであることを知り、

自分の生命は自分だけのものではないこと、自分の生命と同じように他人の生命を大切

に思う気持ちを育てたいと考えた。

授業の後半に使用する資料、「いのちのバトン」は相田みつを氏の詩である。「いのち」

は自分一人のものではなく、多くの「いのち」から引き継がれてきたものであること、

そしてこれから引き継いでいくものであることをよく表している。自分の「いのち」の

有り難さ、生きていることのすばらしさを感じさせたい。

本学級の生徒は、明るく穏やかで、相手のことを思いやる生徒が多い。級友の係活動

を手伝う生徒や、受験生として休み時間や放課後に勉強を教え合う姿もしばしば見られ

る。しかし、一方でふだんの会話の中で軽はずみに「死ね」という言葉を使用する生徒がいたり、ストレスから自分自身を傷つけてしまったりする生徒もいる。「相手を傷つけてはいけない」ということは、誰でも理解しているが、相手の気持ちになって考え、なぜ命が大切なのかということについて考えることは、まだじゅう十分にできてはいない。また、身内の不幸を経験したことのない生徒が多く、生命が有限であり、かけがえのないものであることを真の意味で実感できている生徒は少ないと感じる。

本授業では、かけがえのない生命を育んできた家族の気持ちに迫ることで、自分がど

れほど大切な存在であるか、また、同じように他人にとっても、一人一人の生命がいか

にかけがえのないものであるかを考えさせたい。その上で、自分の今ある限りある命を輝かしながら生きていこうとする気持ちを高めたい。

－１－

(2)主題との関連

＜１年生＞「わたしは何のために生きているの」

　　　　　 ｢四千頭の命｣

＜２年生＞「父の決意」

　　　　　 ｢天井が明るい｣

｣

＜３年生＞「命の重さ」

　　　　　 ｢ヘソの緒の話｣

〈私たちの道徳〉

「生命を輝かせて」

４　本時の目標

1. 命には多くの人の愛情や願いが込められていることに気づき、自他の生命を尊重し

ようという気持ちを高める。

1. 命は過去無量の「いのちのバトン」として受け継がれた、かけがえのない尊いもの

であることに気づき、次へと引き継ぐために、よりよく生きていこうとする気持ちを

高めることができる。

５　一人一人に「響き合い高め合う学び」を与える場面

響き合い高め合う場面

* 「命の重さ」について、自分の意見やグループの意見を、他のグループと比較しながら、さまざまな立場で考える場面。

　ポイントとなる手だて

○　グループでの意見交換により、自分の考えを深め、全体で意見の交流を行う。

○　命のエピソードに関する、保護者からの手紙を朗読する。

６　本時の学習過程（次ページ）

７　本時の観点別評価規準と評価方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | 評価規準 | 評価方法 |
| 道徳的心情 | 「命の重さ」について考えを深め、自他の生命を尊重しようとする気持ちを高めることができる。 | ワークシート |
| 道徳的実践意欲と場面 | 「命」の連続性に気づき、次に引き継ぐために、今をよりよく生きていこうとする気持ちをもつことができる。 | ワークシート |

８　板書計画

　　「命の重さ」

　人から大切にしてもらった経験

　・お弁当を作ってくれた。

　・真剣に叱ってくれた。

　〈「わたし」の気持ち〉

　摘出手術を決意したとき

　・失敗したらどうしよう。

　・２人とも助かってほしい。

　長女の言葉からの心の変化

　・不安や迷いがなくなった

　・小さな命を守っていく決意

**なぜ、「命には価値がある」と**

**いわれているのでしょう。**

１班

最近の

ニュース

漫画の

内容

命の

バトン

〔詩〕

・偶然性

・有限性

・連続性

※命が軽く扱われている

－２－

第３学年６組　　　道　徳　学　習　指　導　案

　　　　　　　　　　第５時限　　　　　３の６教室　　　　　指導者　前　田　博　信

本時の学習過程　◎中心発問　●発問　○予想される反応

－３－

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動  （主な発問や予想される反応） | 形態 | 指導上の留意点・支援など |
| 導  入  (5分) | １　ねらいとする価値や方向付けをはかる。（2分）  ●　人から大切にしてもらった経  験や、出来事を思い出してみよ  う。  ○　お弁当を作ってくれた。  ○　誕生日を祝ってくれた。  ○　真剣に自分を叱ってくれた。  ２　今日のニュースや、漫画やゲームの内容について話す。（3分）  　命の重さについて、自分の考えをもつことができる。 | 全体  全体 | ・「命について考える」という主題をつかむよう促す。  ワークシートの配布・活用  ・だれでも人から大切にしてもらった経験をもっており、自分もだれかに思われている存在であることを確認する。  ・命を奪う事件が後を絶たないこと、人の命が軽く捉えられるような世の中の傾向があることを確認する。 |
| 展  開  の  前  段  (15分) | ３　資料前半を読む。（7分）  ●　摘出手術を決意したとき、「わ  たし」はどんな気持ちだったでし  ょう。  ○　もし失敗したらどうしよう。  ○　どうか２人とも助かってほしい。  ○　もし、命の選択の場面になったら  どうしよう。  ４　資料中盤を読む。（8分）  ●　不安だった「わたし」が、長女の言葉を聞いて、どのように変化したでしょう。  ○　障害があったらどうしよう、という迷いがなくなった。  ○　小さな命を守っていくという決  意が強くなった。  ○　長女の強さに自分も感化され、前向きな気持ちになった。 | 全体  全体 | プリントの配布  ・情景をイメージしやすいように、フラッシュカードを提示しながら範読をする。  ワークシートの活用  ・様々な気持ちが交錯し、動揺するわたしの気持ちに気付かせる。  ・愛する２つの命をどうしても失いたくない「わたし」の気持ちにせまる。  ・「わたし」に共感的に考えることができるように促す。  ワークシートの活用  ・長女の言葉で自分の気持ちにどんな変化があったのか焦点をあてる。  ・長女の純粋な思いを取上げる。  ・わたしが障害をもって生まれてくることに苦悩していたことを気付かせる。 |
| 展  開  の  後  段  (21分) | ５　資料後半を読む。（3分）  ６　資料をふりかえる。（10分）  ◎　なぜ、「命には価値がある」と  いわれているのでしょうか。  ・個人の意見をもつ。  ・グループで意見を交換し、グループとしての意見を出す。   * 人の思いが詰まったものだから。 * 他と比べることができないから。 * 親から受け継いだものだから。   ・各グループの意見をまとめる。  ７　資料最後の文章にある「」の中の語句を埋める。（2分）  ・「この地球」という言葉を入れる。  ８　詩を読む。（4分） | 全体  全体  個  班  全体  全体 | ・資料全体をふりかえり、話の主旨を確認する。  ワークシートの活用  ・自分の意見をもってから、意見交換に臨むように指示する。  ・人によって命の重さの捉え方に違いはあるが、かけがえなく大切なものであるという考えを共有する。  黒板にグループの意見を貼る  ・自分やグループの意見と比較しながら他のグループの意見を聞くように促す。  ・自分の命が、周りの人たちからどれほど大切に思われているのかを感じ取らせる。  詩の拡大掲示  ・自分の命は脈々と受け継がれて、今ここにあることを確認する。  ・資料と詩を関連付ける。  ・後半部分に注目させ、今ある自分の命をどうしていくべきかに焦点をあてる。 |
| 終  末  (9分) | ９　教師の講話を聞く。（2分）  １０　保護者からの手紙を聞く。  （4分）  ・２通の手紙を、共感的な感情を込めて読む。  １１　本時をふりかえり、授業の感想を書く。（5分） | 全体  全体  個 | ・本時のねらいにつながるようにまとめを行い、導きたい価値観に方向付ける。  ・我が子の生命誕生を喜ぶエピソードや、生まれてきてくれて嬉しかったと感じたエピソードの手紙を読むことで、自分の命が親にとって本当に大切なものであることに気付かせる。  ワークシートの活用  ・意見の共有を図るため、何人かの生徒に発表するように促す。 |

－４－